

日本工業標準調査会標準部会(第41回)議事録

- 1 日 時:平成19年5月11日(金)14:00-16:00
- 2 場 所:経済産業省526共用会議室 別館5階
- 3 出席者:二瓶部会長、飯塚委員、岩井委員、小野委員、塩沢委員、田中委員(代理:嶋村)、樋口委員、吹譯委員、前原委員、宮入委員、宮沢委員、矢萩委員、若井委員

(事務局):松本大臣官房審議官、櫻田基準認証政策課長、福田標準企画室長、江口産業基盤標準化推進室長、相澤環境生活標準化推進室長、和泉情報電子標準化推進室長/管理システム標準化推進室長、長野基準認証国際室長、江藤認証課長、越海製品認証業務室長 等

- 4 議 題:
 - 4-1 前回標準部会(書面審議)の結果報告について【報告】
 - 4-2 平成19年度業務計画について【審議】
 - 4-3 国際標準化アクションプラン総論(骨子案)について【審議】
 - 4-4 新分野における国際標準化に関する関係省庁連絡会の設置について【報告】
 - 4-5 研究開発と標準化の一体的推進の取組について【紹介】
 - 4-6 国際標準化支援センターの支援活動について【紹介】
 - 4-7 専門委員会に属すべき者の指名について【審議】
 - 4-8 その他

《配布資料》

- | | |
|--------|--|
| 資料1 | 日本工業標準調査会標準部会委員名簿 |
| 資料2 | 日本工業標準調査会第40回標準部会(書面審議)の報告 |
| 資料3 | 平成19年度工業標準化業務計画(案) |
| 資料4 | 国際標準化アクションプラン総論(骨子案) |
| 資料5 | 新分野における国際標準化に関する関係省庁連絡会の設置について |
| 資料6-1 | NEDOにおける研究開発と標準化の戦略的取組について |
| 資料6-2 | 研究開発と標準化の一体的推進の取組について(産総研における事例) |
| 資料7 | 国際標準化支援センターについて |
| 資料8 | 専門委員会に属すべき者の指名について |
| (参考資料) | 産業構造審議会産業技術分科会報告書(中間報告)「イノベーション創出の鍵とエコイノベーションの推進」(案) |

5 議事概要：

5.1 前回標準部会（書面審議）の結果報告について

事務局から、資料2に基づき第40回書面審議の結果が報告された。

5.2 平成19年度業務計画について

事務局から、資料3に基づき説明し、次の質疑応答の後、了承された。

（前原委員）相澤室長が「標準化と品質管理」（JSA出版）に書かれたユニバーサルデザインの記事－障害者や高齢者を対象としたJISの紹介－は、平明かつ社会との関連性が明確で、門外漢でも十分理解できる内容で感銘を受けた。標準化活動の重要性が、広く理解されていくよう、今後とも、メディアをより広く活用して、このような敷衍活動を継続していただきたい。

次いで、最近の乗物事故の件ですが、この分野にも安全のためJISが従来から存在していて、それが無視されたやに報道されている。規格は、本来、何かが起きたのちに作られるのではなく（リアリティブ）、起きる前に作られるべき（プロアクティブ）で、今回、既に存在していたのなら、真に残念である。標準化活動では、認証制度が普及・進展してきているが、その制度が、JISに加えて適応されていれば、もっと高い安全性が確保されていたのでは、とも思われる。今後事情によっては、基準としてのJIS作りと、その確実な実施を検証する認証制度を組み合わせるべき必要も出てくると思われる。

（二瓶部会長）ご指摘のような一般紙を通じての標準化の重要性のPRは大切なことである。

（事務局）昨年は国際標準化100周年に係る様々な事業を通して、標準化の重要性の認識が国民一般にも一定程度広がった。今後とも分かりやすい広報活動を進めて参りたい。

（岩井委員）私どもでは、AV機器及びIT機器の安全に関する標準化作業を行っている。総務省との調整に時間がかかりすぎて、JIS制定しても陳腐化していることもあるので、迅速に対応していただくようお願いする。各省、横の連携が重要である。

（事務局）出来るだけ早くJIS策定をしたいと思っている。標準化に関し、他省庁と目的が違う訳でもないので、できる限り対応していく。総務省との関係では、専門委員会にも入っていただいているので今後とも協力していく。

（吹譯委員）電子部品の関係で、平成16年度に原案作業したもので、まだJISになっていないものがある。事情があるとは思いますが、迅速に対応されたい。

(事務局)先程申した通りできる限り迅速に進めたい。

(小野委員)3. 工業標準化の重点的取り組みの(2)の分類(a, b, c)については、時間とともに $c \rightarrow a \rightarrow b$ のように移動していくケースもある。柔軟な対応が必要である。

(事務局)重点的取り組みの分類(a, b, c)については、時間的に固定的なものではない。柔軟に対応したい。

(若井委員)消費者のJIS策定への参画を促進すべき。COPOLCOでは、ANEC (The European Consumer voice in Standardisation)が消費者代表の参加支援として、1982年以降助成金でその活動を支援している例もある。日本での仕組みも考えていただきたい。

(事務局)先ずは日本の消費者も、COPOLCOに参加する、消費者参加セミナーに参加する等して、さらに原案作成委員会、JISCの審議に参画していただくといった、現実的な方法から進めたい。

(飯塚委員)官民の役割として、民間だけに任せては標準化が進まないものについては、行政側のリードも必要。ファーストラックは関係各国の理解を得るためだけではなく、我々がやりたいものを作るためにもやるという観点もある。

5.3 国際標準化アクションプラン総論(骨子案)について

事務局から、資料4に基づき説明し、次の質疑応答の後、了承された。

(樋口委員)【取組方針4】アジア太平洋地域等における連携強化に関して、国とJSAのご支援をいただいて我々がアジアに行って ISO の仕組みと技術を教え、ISO に投票を出来るようにしている。現地の人には大変感謝されている。お願いとしては、相手国に設備がない場合は、彼らを日本に呼んで、実際に試験を行う等して理解してもらうことが必要である。海外に行くための旅費支援だけではなく、日本に関係者を招聘するための旅費支援についても検討していただきたい。

(事務局)関係者を招聘し日本で研修を行うことを支援する仕組みはあるので、ご相談いただき活用してほしい。

(宮入委員)私は化学製品を担当しているが、今おっしゃったような動きは実際にある。海外に出かけるのはいいが、日本で対応するのは難しい。委員会でも話に出てくるが、実際誰が旗を振るか、となると金銭面の問題があり言い出せない。それをどうまとめるかが問題だ。

(岩井委員)この資料4は、うまく整理をしていただいてありがたい。要望ということで、幹事国引受に向けた支援強化やアジア太平洋地域等の連携強化の支援を充実

させてほしい。3ページの国際標準化の取組事例集も活用させていただきたい。また6ページの国際標準化重点テーマについての考え方について教えていただきたい。(1)、(3)は分かりやすいが、(2)で国際標準を作るべきものと作らない方がいいものの考え方の整理がうまく出来ないか。標準化と競争力の理論的因果関係に悩んでいる。例えば、事例としてDVDプレイヤーなどで、東大のものづくり研究所で、モジュール型製品とすりあわせ型製品があり、モジュール型製品等の標準を作ったために途上国から真似され、先駆者としての利益がなくなる分野もある。一方製品の中でも標準化を導入しておくことによって、生産技術を持っている日本の産業が維持強化できるという事例をもとに分析をされていることがある。

2.「我が国産業競争力強化に資する国際標準化」というだけだと分からないので、もう少し噛み砕くとどうなるか。基本規格と方法規格は分かるが、製品規格は様々である。企業が業界として標準化する場合に、かえって産業競争力を低くしてしまう。どのように見分けるかの考え方が重要ではないのか。

(事務局)ご指摘いただいた点、大変重大である。ものづくり研究所の話があったが標準化と経済的効果の分析について経済産業省の研究会でやっており、標準化と産業競争力の因果関係、どういったものを標準化した方がいいのか、または積極的にしないという選択もあり、引き続き事例研究をしつつ、企業の第一線管理者が活用できるガイドラインを作るべく今年度研究を進めてまいりたい。その成果は日本経団連との共催の事業化戦略と標準化に関するシンポジウムなどでPRしていく。

(樋口委員)自動車でも同じような状況にあり、試験方法については問題ないが、製品規格に関して、ある国からISOがらみで手伝うから技術を教えてくれとの依頼が来た。これは非常に難しい課題だが、ぜひお願いしたい。

(二瓶部会長)この話題は知的財産の議論と似ている。ご指摘のように、アクションプランをまとめる際には、一概に全てのケースについて国際標準化すべしということではなく、「個々に判断をしつつ」など、限定も含めた要点を書いていた方がいいのではないか。

(事務局)実際取り組むべき標準化の戦略な観点を、アクションプラン各論の冒頭の概要に書きたい。そこでこういった観点から標準化をつくるという、何らかのカテゴリ分けをすべきだと考える。その点ご協力いただきたい。

(宮入委員)資料4の5ページに大学教育に関する記述がある。現状を紹介しているだけでは学生は興味を持たない。インパクトのある話をモデル教材として作ると

学生も興味を持てる。研究と標準化が、どうリンクしているかももう少し議論していただきたい。時間のかかることだと思いがぜひ進めていただきたい。

5.4 新分野における国際標準化に関する関係省庁連絡会の設置について
事務局から、資料5に基づき報告した。

5.5 研究開発と標準化の一体的推進の取組について
宮沢委員と小野委員から、NEDOとAISTの取り組みについて紹介があった。

5.6 国際標準化支援センターの支援活動について
塩沢委員から、JSA・国際標準化支援センターの支援活動について紹介があった。

5.7 専門委員会に属すべき者の指名について
事務局から、資料8に基づき説明し、支援変更について承認された。

5.8 その他
次回の標準部会は、6月19日の午後に開催することとされた。

以上